

「地域経済活性化を後押しする文化・スポーツ・コミュニティの力 — 日系アメリカ人の経験から」

“Culture, Sports, and Community: Harnessing Global Experiences for Local Economic Revitalization”

2024年3月4日（月曜日）16:30 ～ 18:00

Monday, March 4, 2024

会場：大阪国際交流センター 大会議室（さくら西）

Venue: Main Conference Room (SAKURA West), International House, Osaka

主催：国際交流基金

Organized by: The Japan Foundation

共催：米日カウンシル

Co-Organized by: U.S.-Japan Council

後援：外務省、一般社団法人関西経済同友会、公益財団法人大阪国際交流センター

Supported by: Ministry of Foreign Affairs, KANSAI Association of Corporate Executives, Osaka International House Foundation

「地域経済活性化を後押しする文化・スポーツ・コミュニティの力 ―日系アメリカ人の経験から」

国際交流基金は、外務省主催「在米日系人リーダー訪日プログラム」(以下「JALD」)で来日した日系アメリカ人リーダーをパネリストに迎え、2003年より米日カウンシルとの共催でシンポジウムを開催しています。

本シンポジウムでは、米国における日系人社会と日本社会との相互理解を促進し、両者の長期的な関係の強化と対話推進を目指しています。令和5年度は、全米各地で活躍する日系アメリカ人10名が約1週間日本に滞在し、2024年3月4日(月曜日)に、大阪国際交流センターにおいて、公開シンポジウム「地域経済活性化を後押しする文化・スポーツ・コミュニティの力 ―日系アメリカ人の経験から “Culture, Sports, and Community: Harnessing Global Experiences for Local Economic Revitalization”」を開催しました。

シンポジウム次第

- 16:30 開会
- 16:40 第一部 基調講演
- 17:00 第二部 パネルディスカッション
- 18:00 閉会

冒頭、実施団体を代表して、国際交流基金 国際対話部 部長の小島寛之(写真左)と米日カウンシルの会長兼CEOのスザンヌ・バサラ(写真右)より開催の挨拶を行いました。日米間の更なる関係強化にあたり、日米を基軸とした対話や交流事業の推進と、日米の連携パートナーシップにおいて、日系アメリカ人の果たす役割・影響力の大きさについて言及し、本シンポジウムを通じて、日系アメリカ人と日本との絆が一層深まることを祈念しました。



続いて本シンポジウムの大阪での開催にあたり、来賓の外務省 姫野勉 関西担当大使の祝辞がありました。日米の良好な関係の維持・発展において、双方の理解促進に資する事業の継続的な実施の大切さについて、改めて強調をされました。



第一部 基調講演

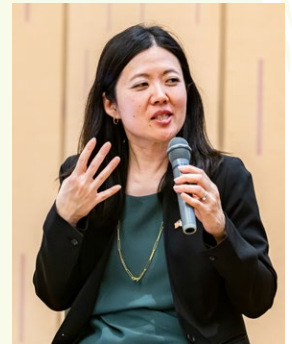
第一部の基調講演では、大阪体育大学学長の前田宗彦氏より、文化やスポーツをきっかけとした国内外での市民交流、そして新たに生まれる地域資源の発掘と魅力発信など、ツーリズムと地域マネジメントの関係等についても触れながら、お話しいただきました。

スポーツツーリズムとは、スポーツを主要な魅力として人々を移動させるメカニズムを作り出すことであり、地域の資源を観光資源として再考・転換し、これに関連したイベント等を商業化して実施していくことを目指したものであることを、具体的事例を交え、ご紹介いただきました。その中で、日本の武道が重要な観光コンテンツとして海外からの注目を集めていること、またアウトドアを絡めた観光は、日本各地に存在する海、山、川、湖などの自然環境での身体活動に参加するものであることから、各地域特有の景観、環境、文化を紹介することにもつながること等、お話しいただきました。また、前田氏は一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構の代表理事でもあり、同機構として、武道を絡めた観光やマラソン大会等の都市型スポーツ観光など、新たな分野を取り入れながら、日本のスポーツ観光の司令塔として事業を拡大していくご展望についても、お話しくださいました。



第二部 パネルディスカッション

続く第二部ではJALDプログラムにより来日した日系アメリカ人10名のうち5名にご登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。現在は米国商工会議所米日経済協議会常任理事で、これまではAP通信で経済副編集長を務めたほか、同東京支局で日本ビジネス特派員として勤務された経歴も有する元ジャーナリストのトモコ・ホサカ・マレーニー氏をモデレーターに迎え、アニカ財団代表取締役兼社長のロブ・オオノ氏、ソルトレイクシティ市議会議員のダレン・mano氏、メティス・デザインLLC社オーナー兼首席建築家のアンナ・ニノユ氏、JapanCulture-NYC創設者兼編集長のスーザン・ミヤギ・マコーマック氏の合計4名の日系アメリカ人の方々とパネリストとし、文化やスポーツが地域コミュニティに果たす役割について、語り合いました。



パネリストの4名は、非営利団体、政治、企業、メディアという異なるセクターに身を置きながら、文化やスポーツを介して地域や人々を繋ぎ、リーダーとしてより良いコミュニティ環境を創出していくための事業や活動にも携わっており、それぞれのご経験についてお話しいただきました。ロブ・オオノ氏は、プロゴルフツアーの責任者として、ツアー期間中の活動が地域社会に与える影響について述べ、ダレン・mano氏は、ソルトレイクシティの市議会議員として、地方自治体の視点からスポーツと経済開発について語り、特にソルトレイクシティがメジャーリーグ等のスポーツチームを誘致し、2030年の冬季オリンピック開催地候補として注目されていることにも触れました。アンナ・ニノユ氏は、シカゴと大阪市の姉妹都市関係や1893年のシカゴ万国博覧会時の影響について紹介しました。またスーザン・マコーマック氏は、米国人を対象とした日本文化紹介サイトを立ち上げた経験から、日本文化や日本食等に対する高い関心が、地域（ニューヨーク市）に与えたポジティブな影響について、お話しくださいました。



最後に、シンポジウムの聴講者が、パネリスト4名に対して質問をする時間も設けられ、日本と米国での比較も交えながら活発なやり取りが行われ、双方での積極的な交流の場ともなりました。

登壇者プロフィール（敬称略）



【基調講演者】原田 宗彦 [大阪体育大学 学長／一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構代表理事]

ペンシルベニア州立大学博士課程(Ph.D.)修了。大阪体育大学教授、フルブライト上級研究員（テキサスA&M大学）、早稲田大学スポーツ科学学術院教授を経て、現在は大阪体育大学学長。役職として日本スポーツマネジメント学会会長、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構代表理事、公益社団法人日本トライアスロン連合顧問、公益社団法人日本バレーボール協会理事を務める。著書については「スポーツ産業論第7版」（編著）、「オリンピックマーケティング」（監訳）、「スポーツマーケティング改訂版」（共著）「スポーツ・ヘルスツーリズム」（編著）「スポーツ都市戦略」（単著：2016年度不動産協会賞受賞）「スポーツ地域マネジメント」（単著）など多数。



【モデレーター】トモコ・ホサカ・マレーニー (Tomoko Hosaka Mullaney) [米国商工会議所米日経済協議会常任理事]

米国商工会議所米日経済協議会 (USJBC) の常任理事として、政策・プログラム専門家チームを率い、日本における米国企業の利益の促進と日米間の経済関係の強化に取り組む。2022年の入所前は、アジアグループで副社長を務め、日本の政治、規制、市場情勢に関する戦略的アドバイザリーサービスを提供。元ジャーナリストでもあり、ワシントンD.C.のAP通信で経済副編集長を務めたほか、同東京支局で日本ビジネス特派員として勤務し、2011年の東日本大震災取材したチームの主要メンバーでもある。AP通信入社前は、東京のダウ・ジョーンズ経済通信で編集者として勤務、オレゴン紙、ワシントン・ポスト紙、アトランタ・ジャーナル・コンスティテューション紙に寄稿している。米日カウンシルのメンバー。早稲田大学大学院アジア太平洋研究科で国際関係学修士号取得、ノースウェスタン大学メディル・ジャーナリズム・スクールで学士号を取得。○両親の出身県：茨城県（母方）、神奈川県（父方）



【パネリスト】ダレン・マノ (Darin Mano) [ソルトレイクシティ市議会議員]

ソルトレイク市議会議員であり、建築家兼教育者。ユタ大学で建築学と心理学の学士号、ハーバード大学で建築学の修士号を取得。日系4世。九州と沖縄での2年間の居住経験があり、その間に日本語を学ぶと共に、日本の文化や人々、芸術、食べ物に対する深い尊敬と愛着を感じるようになる。性別や民族的にも多様な専門家に機会提供することを目的とした会社Uncommon Architectsを経営しており、建築家としても活動する。ユタ大学で6年間、建築と都市デザインについて教鞭を執った後、2020年にソルトレイク市議会議員に就任。2023年は市議会議長を務め、市の住宅事情の問題解決に注力する。○両親の出身県：静岡県及び宮崎県



【パネリスト】スーザン・ミヤギ・マコーマック (Susan Miyagi McCormac) [JapanCulture-NYC創設者兼編集長]

日本関連のイベント広報やニューヨーカーに対する日本文化の紹介、及び日本人と日系人コミュニティを繋ぐための英語のウェブサイト「JapanCulture-NYC」の創設者兼編集長。ノースカロライナ大学チャペルヒル校を1990年に卒業、コミュニケーションの学位取得後、スポーツ番組のテレビで長いキャリアを積み、ニューヨーク・ヤンキースの試合やワールドベースボールクラシックの取材で東京を訪れた経験あり、松井秀喜氏を招いた野球伝来150年記念パネルディスカッションの司会も務める。ニューヨーク日系人協会の副会長、ニューヨーク元JET参加者会理事、米日カウンシルニューヨーク地域コミュニケーション委員会の委員を務める。○両親の出身県：沖縄県



【パネリスト】アンナ・ニノユ (Anna Ninoyu) [メティス・デザインLLC社オーナー兼首席建築家]

シカゴを拠点とする建築設計事務所メティス・デザインのオーナー兼首席建築家。2017年に夫と共に同会社を設立。クライアントには、シカゴ大学医学部、中西部関連病院、シカゴ定住者会などがある。2017年より米日カウンシルのメンバーを務め、現在は中西部事務所の所長を務める。非営利団体シカゴ・アクセス・ネットワークテレビの理事長も務め、メディア制作のトレーニングや教育、コミュニティフォーラムを提供する。2018年と2019年には、イリノイ工科大学の非常勤講師として建築学部のカリキュラムを開発し、「先端技術におけるトピック」と題した学生の日本への出張型セミナーを実施。現在は、シカゴ美術館附属美術大学建築学科、奈良教育大学及び奈良女子大学の建築学科との共同研究にも携わる。○両親の出身県：三重県、愛知県



【パネリスト】ロブ・オオノ (Rob Ohno) [アニカ財団 代表取締役兼社長]

アニカ財団の代表取締役兼社長として、ゴルフを通じた女性の人材育成を行う。PGAツアーでの24年間の勤務経験あり、グローバルスポンサーシップや企業パートナーシップ事業等様々な分野を牽引した後、ラテンアメリカ、アジア、カナダのプロゴルフツアーを責任者として監督。同社入社前は、アメリカン・ゴルフ・コーポレーション、ゼネラル・ミルズ、ケンブリッジ・アソシエイツで、営業、マーケティング、アナリストとして勤務。ハーバード大学経済学科卒業、ノースウェスタン大学クロッグ経営大学院経営学修士取得。大学卒業後、ドイツで1年間プロアイスホッケー選手としても活躍。アジア・ジュニアゴルフ協会 (AJGA) 及びレクリエーション・ポート・アンド・フィッシング・ファンデーション (RBFF) の理事も務める。過去にはVicar's Landing、ボンテ・ヴェドラYMCA、Harvard Interviewing & Recruiting of North Floridaの理事長／副会長を務めた。○両親の出身県：愛媛県

“Culture, Sports, and Community: Harnessing Global Experiences for Local Economic Revitalization”

The Japan Foundation has been holding this symposium together with the U.S.-Japan Council since 2003. It invites Japanese American leaders, who are in Japan as part of the Japanese American Leadership Delegation (JALD) program organized by the Ministry of Foreign Affairs, to give talks as panelists.

The symposium facilitates mutual understanding between society in Japan and Japanese American society in the United States, and aims to strengthen long-term ties and promote dialog between the two. In 2024, ten Japanese Americans active over the United States stayed in Japan for about one week, and on March 4, 2024 (Monday), a public symposium called “Culture, Sports, and Community: Harnessing Global Experiences for Local Economic Revitalization” was held at the International House, Osaka.

Symposium Schedule

- 16:30 Opening
- 16:40 Part 1: Keynote Speech
- 17:00 Part 2: Panel Discussion
- 18:00 Closing

The opening ceremony began with introductory remarks by Hiroyuki Kojima, Managing Director of the Global Partnerships Department at The Japan Foundation (left), and Suzanne Basalla, President and CEO of the U.S.-Japan Council (right). They talked about further strengthening ties between Japan and the United States, the promotion of projects facilitating dialog and exchange between the two countries, and the influential role that Japanese Americans can play in the bilateral partnership. They also expressed their wish for stronger ties between Japanese Americans and the nation of Japan.



Because the symposium was held in Osaka, there was then a congratulatory address from Tsutomu Himeno, Ministry of Foreign Affairs Ambassador in charge of the Kansai region.

His address reinforced the importance of continuing to have opportunities that contribute to the promotion of mutual understanding and the maintenance and development of good ties between Japan and the United States.



Part 1: Keynote Speech

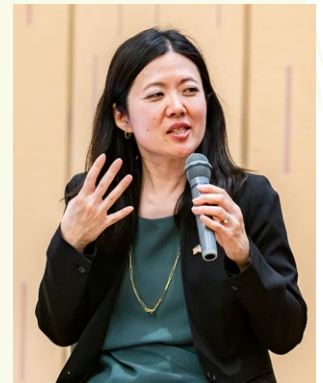
Munchiko Harada, President of Osaka University of Health and Sport Sciences, spoke about the relationship between tourism and regional management, such as sport and culture related opportunities for citizens in Japan and abroad to interact, as well as the discovery of new regional resources and the ability to convey the appeal of regional areas.

He explained how sport tourism is a mechanism for leveraging the appeal of sports to move people around and gave examples of how it can rethink and transform regional resources into tourism resources and aim to commercialize related events. He also mentioned that Japanese martial arts are popular with overseas tourists and how outdoor tourism can take advantage of the natural seas, mountains, rivers, and lakes over Japan to introduce unique regional scenery, environments, and culture. As Chairman of the Japan Sport Tourism Alliance, Munchiko also spoke about his hopes that the alliance could expand its business as a leader in Japanese sport tourism, while also focusing on new areas such as martial arts tourism and urban sport tourism, which includes marathons.



Part 2: Panel Discussion

In Part 2, five of the ten Japanese Americans visiting on the JALD program took the stage to have a panel discussion. The panel was moderated by former journalist Tomoko Hosaka Mullaney, Executive Director of the U.S.-Japan Business Council (USJBC) at the U.S. Chamber of Commerce, who has previously served as deputy economics editor at The Associated Press (AP) and worked as a business journalist in the AP's Tokyo Bureau. Panelists included Rob Ohno, the President and CEO of the ANNIKA Foundation, Darin Mano, a Salt Lake City Council Member, Anna Ninoyu, the owner and principal architect of METIS Design LLC, and Susan Miyagi McCormac, the founder and Editor in Chief of JapanCulture NYC. These four Japanese American panelists spoke about the role that culture and sports can play in regional communities.



Despite working in the disparate fields of NGO work, politics, business, and the media, all of the panelists connect people via culture and sports and are involved as leaders in businesses and other activities for creating better community environments. They shared information on their unique experiences. As leader of a pro golf tour, Rob Ohno spoke about the impact that activities during the tour can have on regional communities. As a Salt Lake City Council Member, Darin Mano spoke about sport and economic development from the perspective of regional government, with a particular focus on Salt Lake City's efforts to attract sports teams such as a Major League Baseball team and the fact that the city has been attracting attention as a candidate for the 2030 Winter Olympics. Anna Ninoyu talked about the sister city relationship between Chicago and Osaka and mentioned the impact of the

Chicago World's Fair in 1893. Susan McCormac spoke about her experience in launching a website for introducing Japanese culture to Americans and how their great interest in Japanese culture and cuisine has had a positive impact on her region (New York City).

The panel concluded with questions from the audience, which led to lively discussion on the differences between Japan and the United States and gave both sides an opportunity for lively interaction.



Speaker Profiles (Titles Omitted)



[Keynote Speaker] **Munehiko Harada**

[President, Osaka University of Health and Sports Sciences / Chairman, The Japan Sport Tourism Alliance (JSTA)]

He is the president of Osaka University of Health and Sport Sciences. He was educated in Japan (Kyoto University of Education and Tsukuba University), achieved his Ph.D. at the Pennsylvania State University and was a Fulbright Senior Researcher at Texas A&M University. After serving as a professor at Osaka University of Health and Sport Sciences for 17 years and at Waseda University for 16 years, he was appointed as the president of Osaka University of Health and Sport Sciences in April 2021. He is the former President of the Japanese Association for Sport Management and the former President of the Asian Association for Sports Management (JASM), Chairman of the Japan Sport Tourism Alliance (JSTA), and the board member of Japan Volleyball Association (JVA). His Research and teaching areas are Sport Management, Sport Marketing, and Sport Tourism.



[Moderator] **Tomoko Hosaka Mullaney** [Executive Director, U.S.-Japan Business Council, U.S. Chamber of Commerce]

She is Executive Director of the U.S.-Japan Business Council (USJBC) at the U.S. Chamber of Commerce. She leads a team of policy and program experts to promote U.S. business interests in Japan and strengthen the bilateral economic relationship. Prior to joining the U.S. Chamber in 2022, Tomoko was Vice President at The Asia Group, and supported clients across a variety of sectors, providing them with strategic advice and analysis of Japan's complex political, regulatory, and economic landscape. Tomoko is a former journalist and leader in media and technology. She served as deputy economics editor at The Associated Press (AP) in Washington, D.C. and worked as a business journalist in the AP's Tokyo Bureau, where she was a key member of the team that covered the 2011 earthquake. Tomoko is a Council Leader with the U.S.-Japan Council. She holds a Master of Arts in International Relations from Waseda University and graduated from Northwestern University with a Bachelor of Science in Journalism. Prefecture in Japan of ancestral origins: maternal side from Ibaragi, paternal side from Kanagawa.



[Panelists] **Darin Mano** [City Council Member, Salt Lake City Council]

He is a Salt Lake City Council Member, licensed architect, and educator. He holds undergraduate degrees in Architecture and Psychology from the University of Utah and a Master of Architecture degree from Harvard University. Darin is a Japanese American from the Yonsei generation. He has lived in Kyushu and Okinawa, Japan for two years where he learned to speak Japanese and developed a deep respect and love for the culture, people, arts, and food of Japan. As an architect, Darin owns and manages Uncommon Architects, a firm that aims to provide opportunities for gender and ethnically diverse professionals. Darin also taught architecture and urban design at the University of Utah for six years before becoming a Salt Lake City Council Member in 2020. He now serves as the Council Chair and is focused on solving the city's housing crisis. Prefecture in Japan of ancestral origins: Shizuoka and Miyazaki.



[Panelists] **Susan Miyagi McCormac** [Founder & Editor-In-Chief, JapanCulture-NYC]

She is the founder and Editor-in-Chief of JapanCulture-NYC, an English Language website that introduces Japanese culture to New Yorkers and connects members of the Japanese and Japanese American community while promoting Japanese-related events. A 1990 graduate of North Carolina with a degree in communications, she has also had a long career in sports television, which has taken her to Tokyo to work Yankees games and the World Baseball Classic. Her career in baseball merged with her community involvement when the Japanese Consulate tapped her to moderate a panel discussion celebrating the 150th anniversary of baseball's introduction to Japan, which featured Yomiuri Giants and New York Yankees legend Hideki Matsui. Susan is a Vice President of The Japanese American Association of New York, on the Board of Directors of the JET Alumni Association of New York, and the Communications Committee of the New York Region of the U.S.-Japan Council. Prefecture in Japan of ancestral origins: Okinawa.



[Panelists] **Anna Ninoyu** [Owner & Principal Architect, METIS Design]

She is the owner and principal architect of METIS Design, an architecture design firm based in Chicago, started with her partner and husband in 2017. Her current clients include Apple, The University of Chicago Medicine, Related Midwest and the Japanese American Service Committee among others. Anna is a member of the U.S.-Japan Council since 2017 and currently serves as the Chair for the Midwest Region. She is also the Chair of the Board for Chicago Access Network TV, a non-for-profit organization, media production training and education, and a community forum for elected officials and leaders accessible to all Chicagoans. In 2018 & 2019, as adjunct professor at the Illinois Institute of Technology, she developed the curricula for the College of Architecture to teach a traveling seminar to Japan titled "Topics in Advanced Technology." She also lectured at the School of the Art Institute's College of Architecture (SAIC) and invited frequently as guest design juror. She is currently collaborating with the SAIC, University of Wisconsin, IIT, and the Nara University of Education to establish an architectural studio program. Prefecture in Japan of ancestral origins: Mie and Aichi.



[Panelists] **Rob Ohno** [President and CEO ANNIKA Foundation]

He is the President and CEO of the ANNIKA Foundation. He is responsible for all aspects of the organization, which supports and empowers young women globally to pursue their dreams through the game of golf. Previously, Rob served at PGA TOUR for twenty-four years, where he was a member of the senior leadership team. He led various areas of the global sponsorship and corporate partnership business. Later, he became Head of International Tours, where he oversaw professional golf tours in Latin America, Asia, and Canada. Prior to TOUR, Rob worked at American Golf Corporation, General Mills and Cambridge Associates in various sales, marketing, and analyst capacities. Rob graduated from Harvard University with a B.A. in Economics and received his M.B.A. from the Kellogg School of Management at Northwestern University. He played professional ice hockey in Germany for a year after college. Rob serves on the Boards of the AJGA and RBFF organizations. He was formerly Board Chair/Vice Chair of Vicar's Landing, the Ponte Vedra YMCA, and Harvard Interviewing & Recruiting of North Florida. Prefecture in Japan of ancestral origins: Ehime.

■ パネリスト以外の訪日メンバー

□ Other Delegation Members



ナオミ・カワムラ
「伝承」エグゼクティブ・ディレクター

Naomi Kawamura
Executive Director, DENSHO



ジョージ・タナカ
U.S. バンク マネージング・ディレクター

George Tanaka
Managing Director, U.S. Bank



ヨウ・カワナミ
ハワイアン電力 ディレクター

Yoh Kawanami
Director, Hawaiian Electric Company



デイビッド・ヨシムラ
フェーグル・ドリンカー・ビドル&リース法律
事務所弁護士（パートナー）

David Yoshimura
Attorney Faegre Drinker Biddle & Reath LLP
(Partner)



デレック・ケンモツ
米国防省国防イノベーション・ユニット AI/ML
部門パートナーシップ責任者

Derek Kenmotsu
Head of Partnerships, AI/ML, Defense Innovation
Unit

国際交流基金

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-4

TEL: 03-5369-6075 FAX: 03-5369-6044

The Japan Foundation

1-6-4 Yotsuya, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0004, Japan

TEL: 81-3-5369-6075 FAX: 81-3-5369-6044